

中国地域の経済動向

(2025年7月の指標を中心に)

～持ち直しの動きの中で一部弱含んでいる～

2025年9月18日

(本発表資料のお問合せ先)
総務企画部企画調査課長 中野 伸二
電話：082-224-5633
メール：bzl-chugoku-chosa@meti.go.jp

～判断の推移～

2025年8月（6月指標中心）

2025年9月（7月指標中心）

基調判断	持ち直しの動きに足踏み感がみられる	持ち直しの動きの中で一部弱含んでいる
1. 生産動向	横ばい傾向	弱含みで推移
2. 個人消費	緩やかな持ち直しの動きがみられる	持ち直しの動きに足踏み感がみられる
3. 雇用	有効求人倍率は前月に比べ低下、新規求人数は前年同月比で減少	⇒
4. 景況感	現状、先行きともに前月に比べ上昇	現状は前月に比べ低下、先行きは上昇
5. 貿易	輸出、輸入ともに前年同月比で減少	⇒
6. 建設動向	公共工事は前年同月比で増加、住宅建設は前年同月比で減少	⇒
7. 企業倒産	件数は前年同月比で減少、負債総額は前年同月比で増加	⇒
8. 設備投資	2025年度計画は前年度を上回る見込み	⇒

1. 生産動向 ～弱含みで推移～

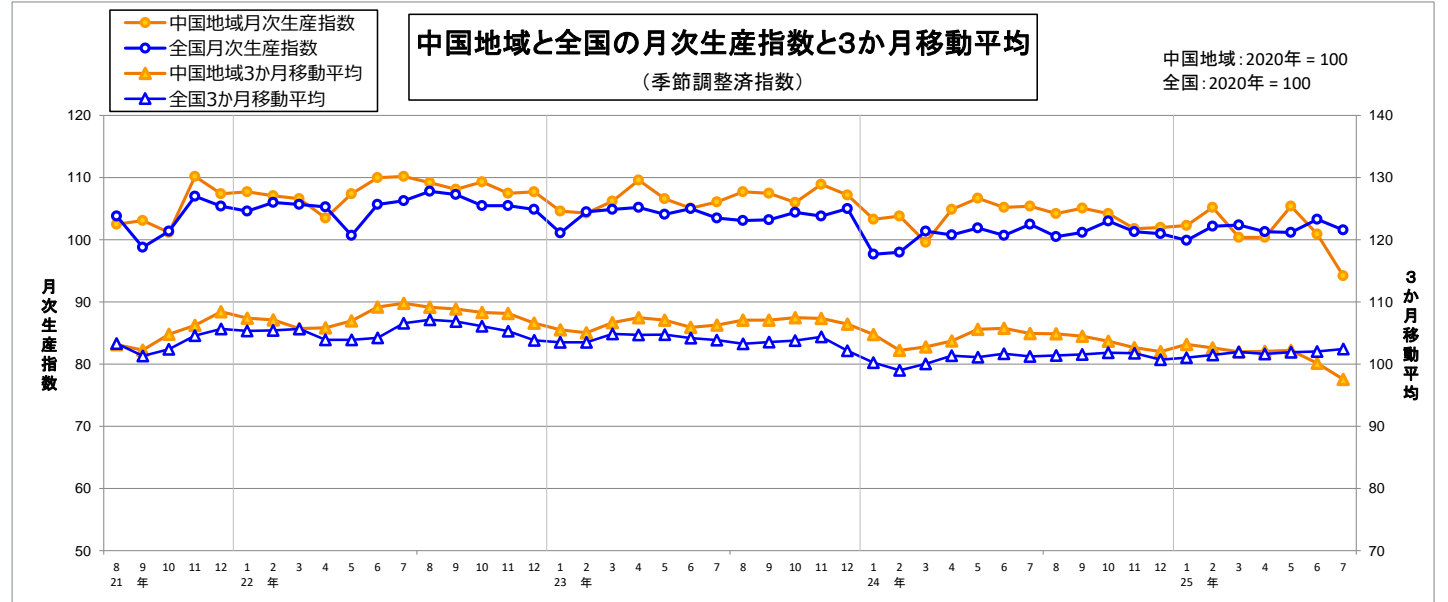
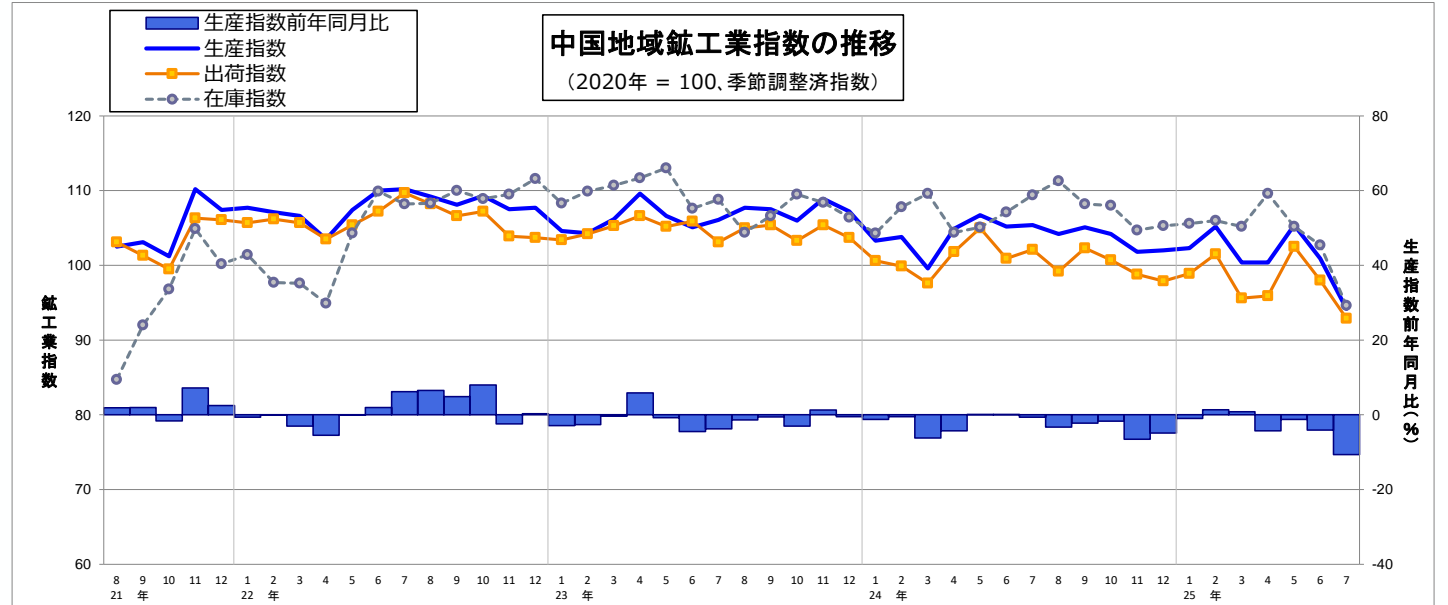
2025年7月の鉱工業生産指数（速報）は94.2、前月比 ▲6.6%の低下となった（2020年=100、季節調整済）。出荷は低下、在庫は低下、在庫率は低下となった。

生産を業種別にみると、電子部品・デバイス工業、パルプ・紙・紙加工品工業、食料品・たばこ工業などが上昇し、自動車（乗用車・トラック・主要部品）、生産用機械工業、化学工業（除. 医薬品）などが低下した。

【主要業種の動向】

自動車（乗用車・トラック・主要部品）は、需要動向に応じた生産計画の見直しにより低下傾向。生産用機械工業は、生成AI向けが好調な半導体製造装置などの影響により高い水準で横ばい傾向。化学工業（除. 医薬品）は、低い水準で推移する中定期修理の影響が継続。

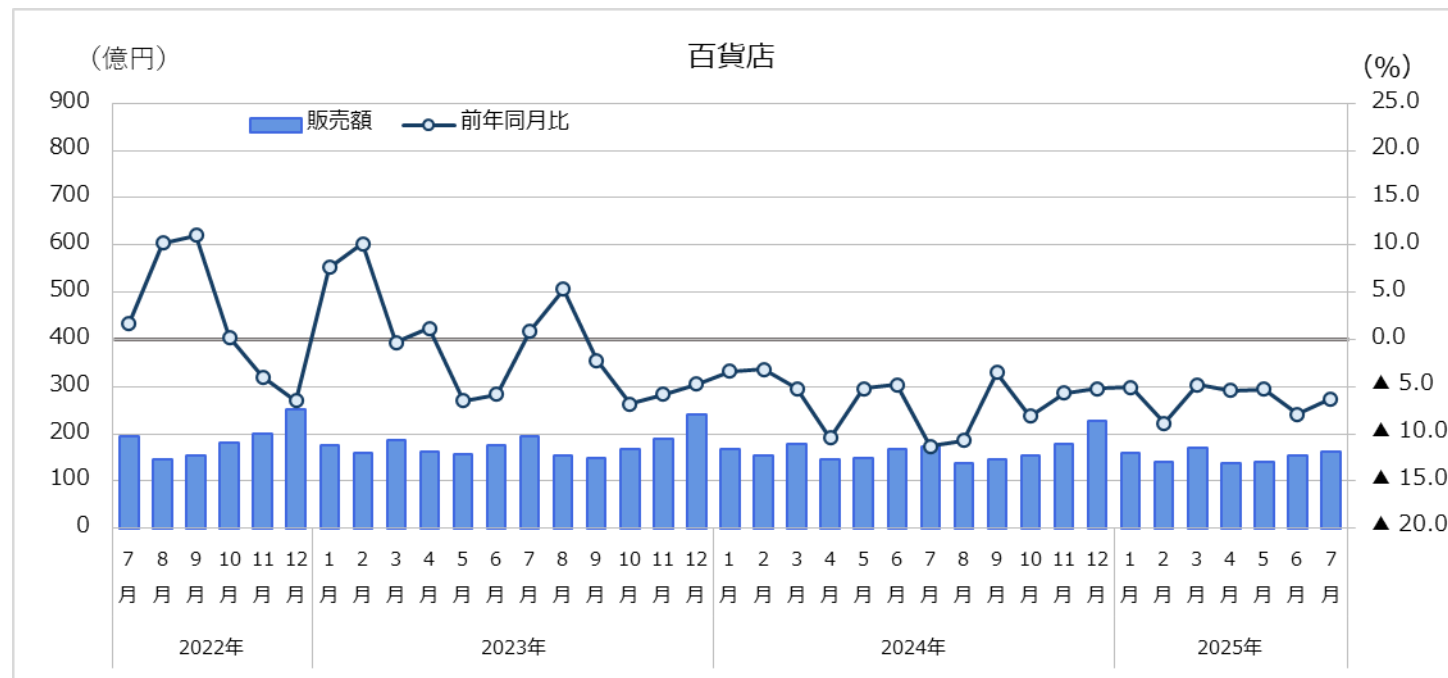
詳細データはこちらから



2. 個人消費

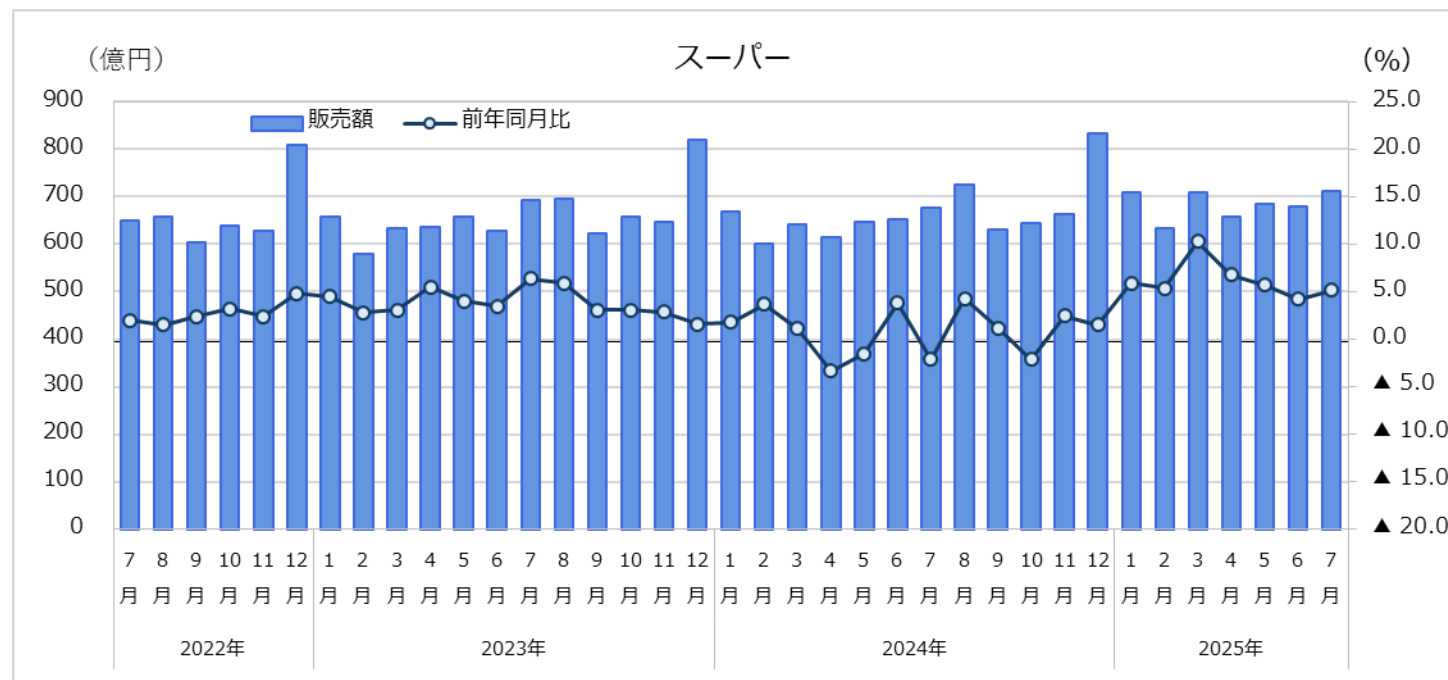
(1)百貨店の状況

猛暑の影響で来店客数が減少したほか、前年好調だった金製品、美術品の売上が減少した。また、飲食品は引き続き価格上昇により鮮魚が低調だった。そのほか、ハンドバッグや靴の動きが鈍かった。



(2)スーパーの状況

備蓄米放出により伸び幅は鈍化したものの、引き続き価格上昇により米の売上が増加したほか、刺身の売上が増加した。また、猛暑の影響で家庭での調理が敬遠され、冷やし麺や揚げ物が好調だった。一方、虫が出ず殺虫剤が低調だった。



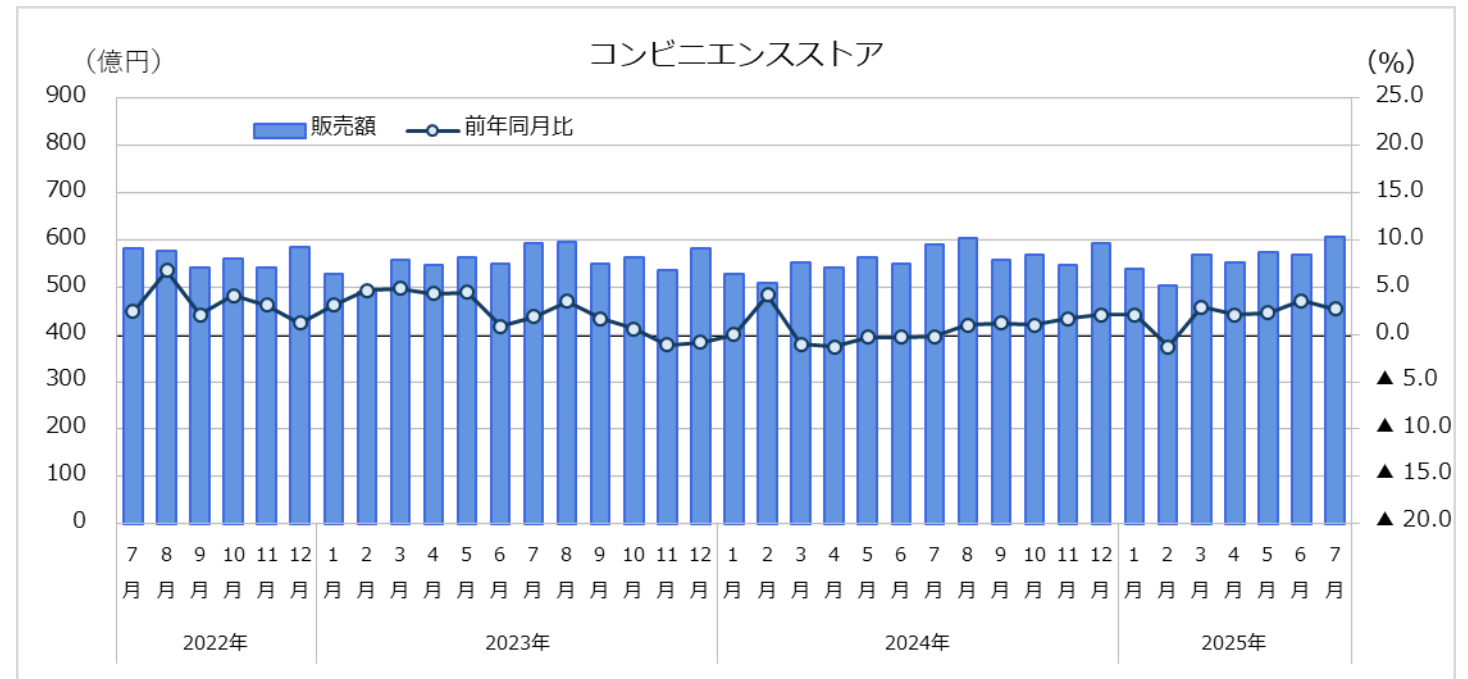
詳細データはこちらから



2. 個人消費

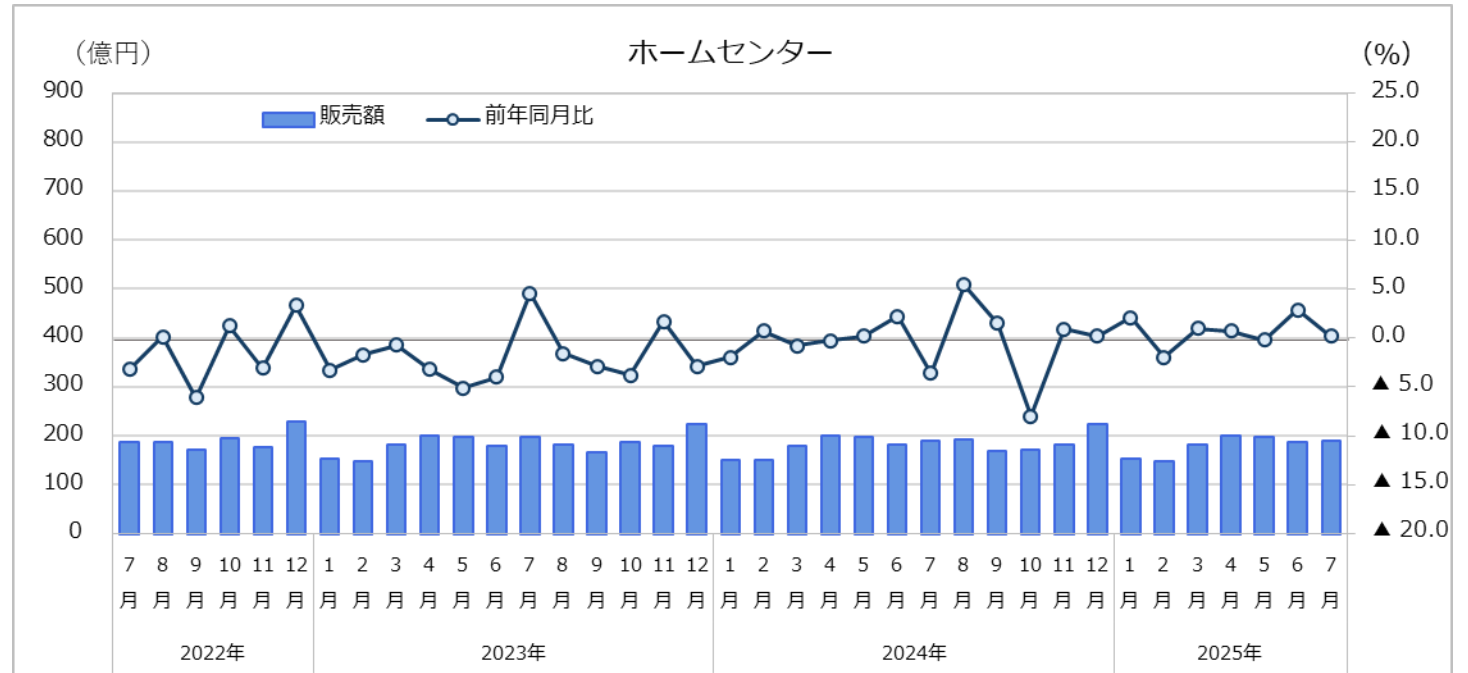
(3) コンビニエンスストアの状況

猛暑の影響で飲料、アイス、冷やし麺が好調だったほか、苦戦が続いていた酒類により動きがみられた。また、新商品効果でおにぎりが好調だったほか、価格上昇で菓子の売上が増加した。



(4) ホームセンターの状況

猛暑と雨が少なかった影響で、散水用品、レジャー用品、ファン付きウエア、飲料が好調だった。一方、虫が出ず殺虫剤が低調だったほか、需要が前倒しになった冷房用品が低調だった。また、節約志向で敷きパッドなどの寝具が低調だった。

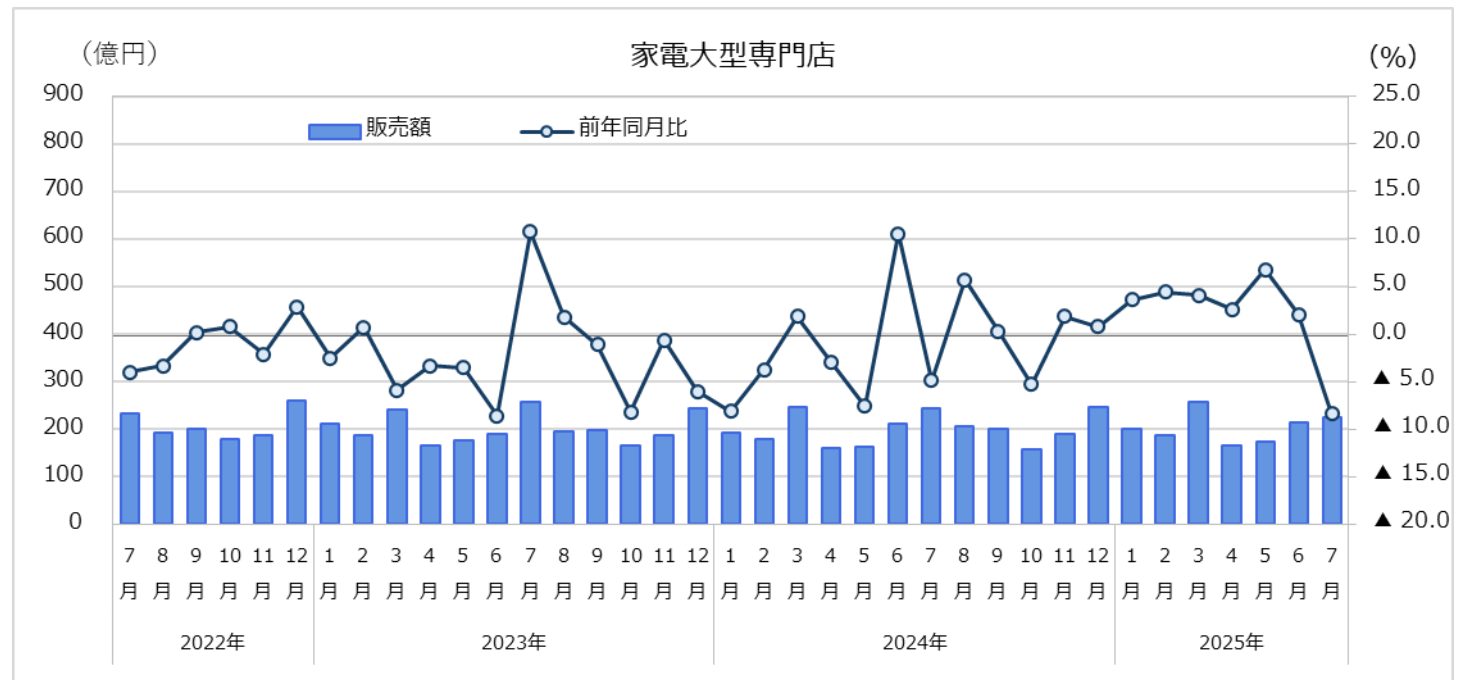


(資料) 「商業動態統計調査」 (経済産業省)

2. 個人消費

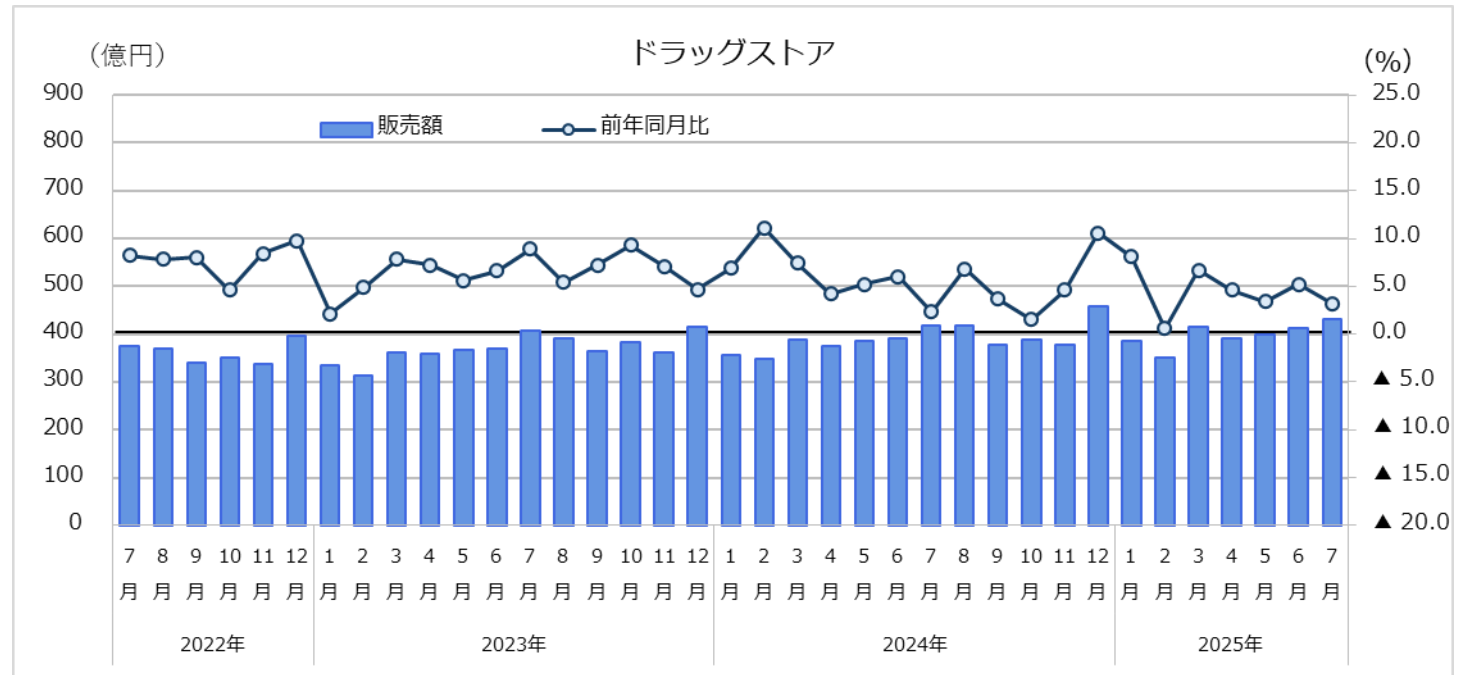
(5)家電大型専門店の状況

前月後半から気温が上昇しており、需要が前倒しになったエアコンが低調だった。また、前年の反動で引き続きテレビが低調だったほか、冷蔵庫が振るわなかった。



(6)ドラッグストアの状況

引き続き価格上昇により米の売上が増加した。また、猛暑の影響で飲料、アイスが好調だったほか、UVケア商品、スキンケア商品が好調だった。一方、前年の反動で総合感冒薬や咳止めが低調だった。

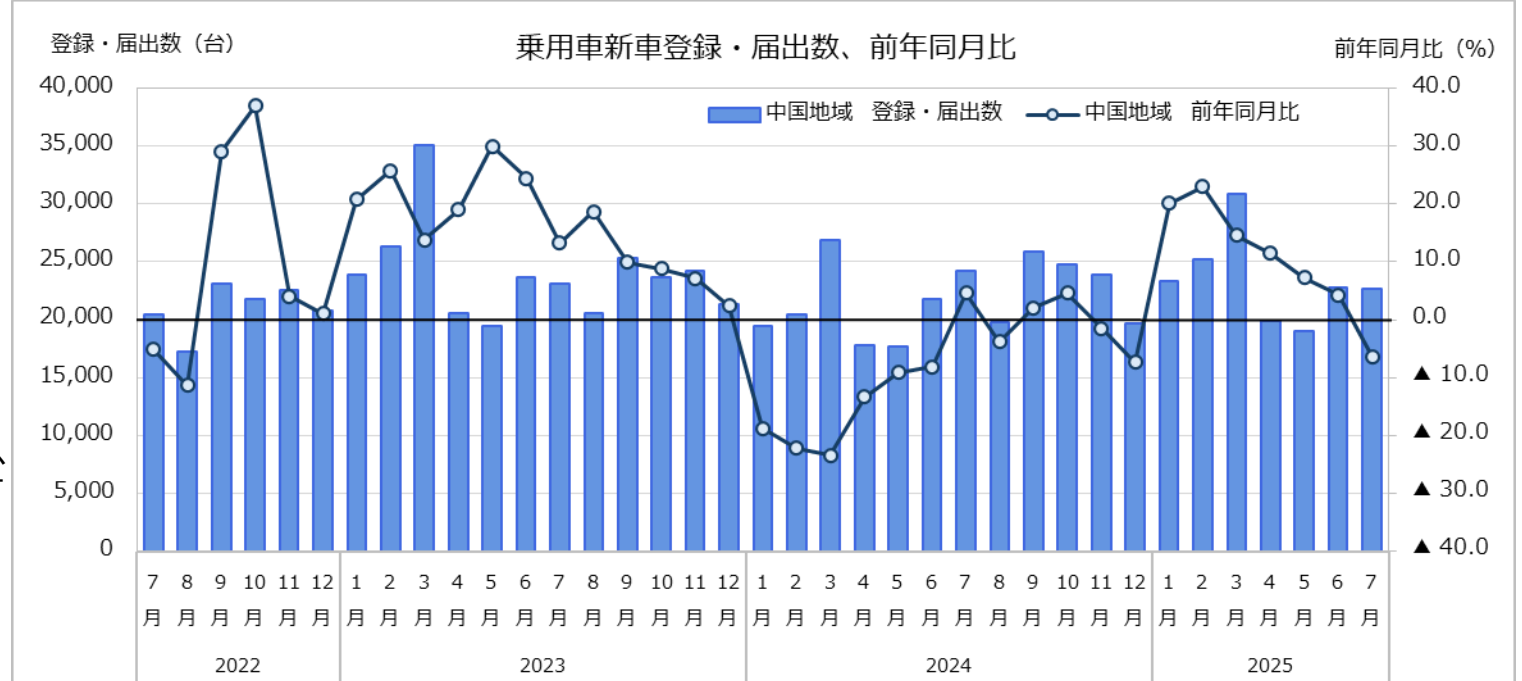


(資料) 「商業動態統計調査」 (経済産業省)

2. 個人消費

●乗用車新車登録・届出数

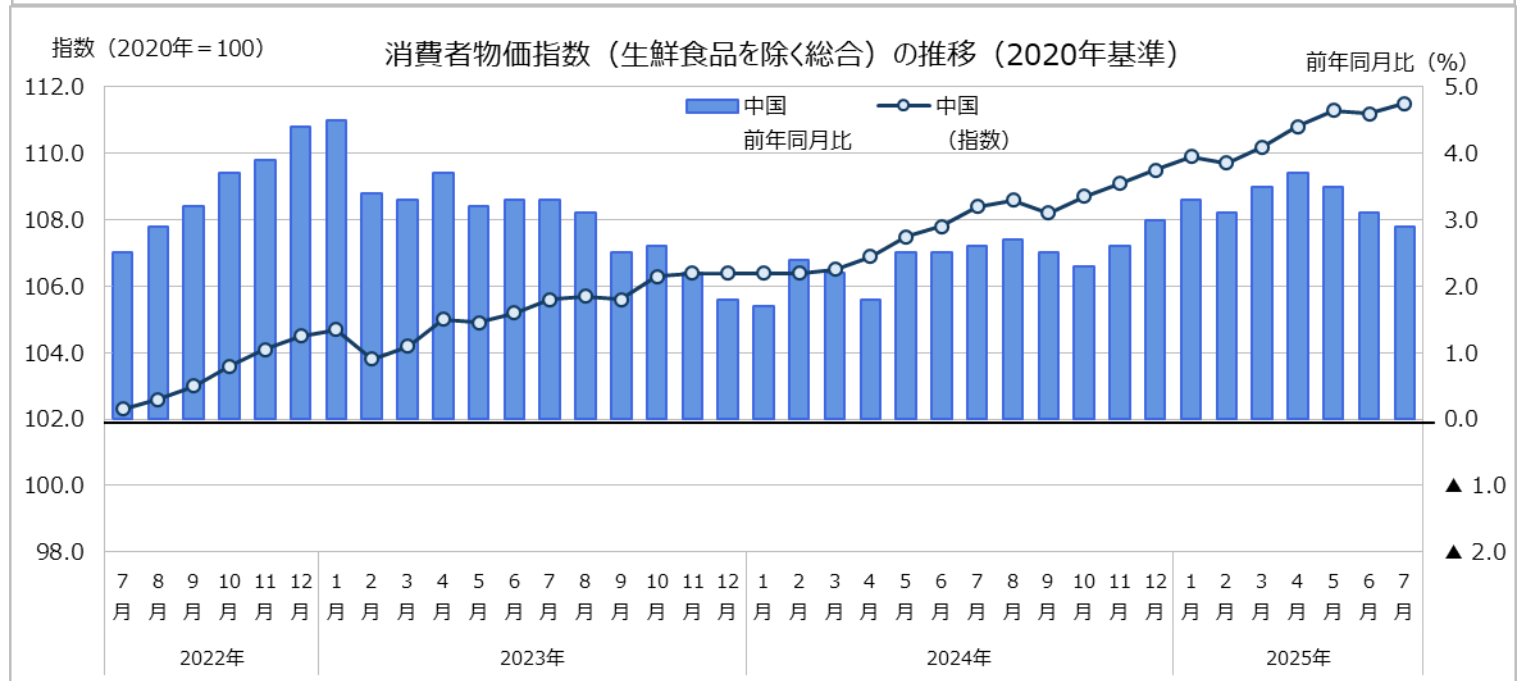
2025年7月の乗用車新車登録・届出数は、普通乗用車、小型乗用車、軽乗用車全てが前年同月を下回り、合計では前年同月比▲6.4%と7か月ぶりに前年を下回った。



(資料) 中国運輸局資料をもとに中国経済産業局作成

●消費者物価指数 (中国地域)

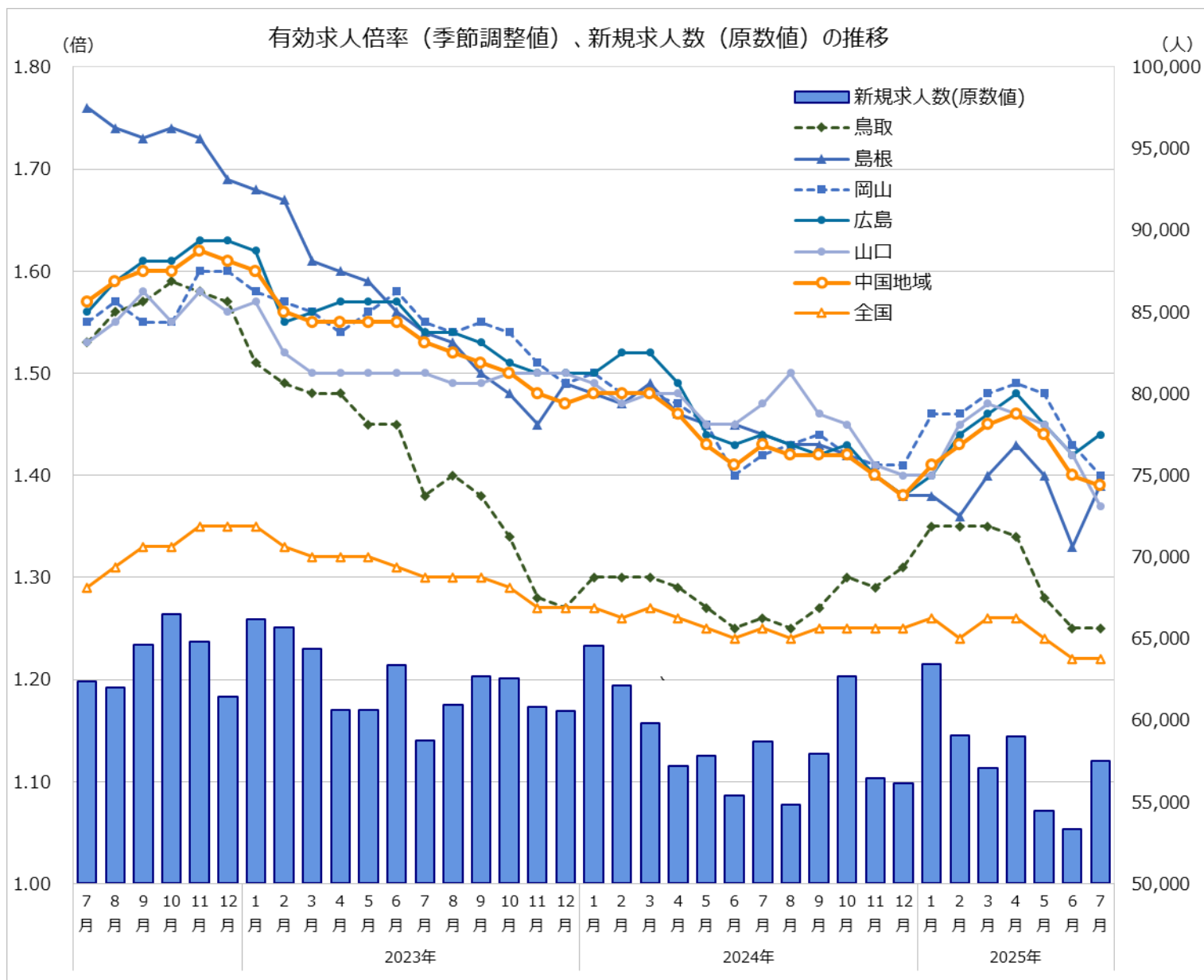
2025年7月の消費者物価指数 (生鮮食品を除く総合指数) は前年同月比2.9%の上昇となった。



(資料) 「消費者物価指数」 (総務省)

3. 雇用 ～有効求人倍率は前月に比べ低下、新規求人数は前年同月比で減少～

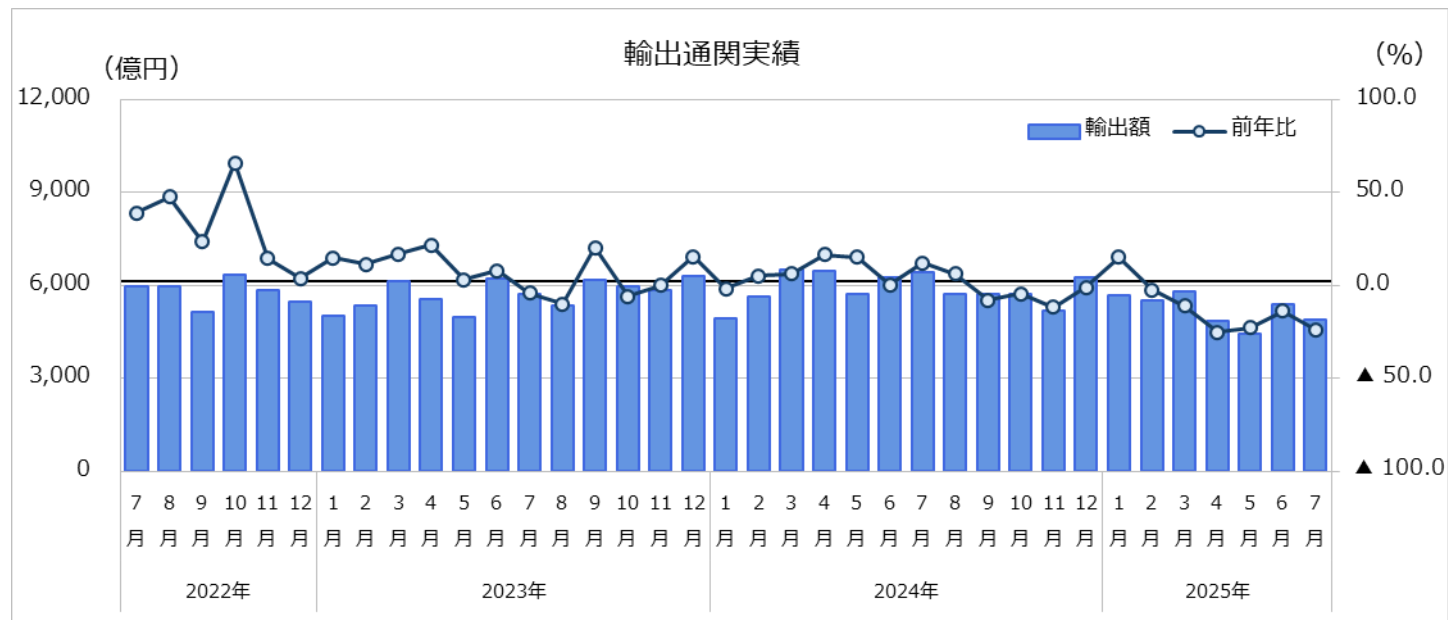
2025年7月の有効求人倍率は、1.39倍で前月の値を0.01ポイント下回り、3か月連続の低下となった。また、新規求人数（原数値）は、前年同月比▲2.0%で3か月連続の減少となった。



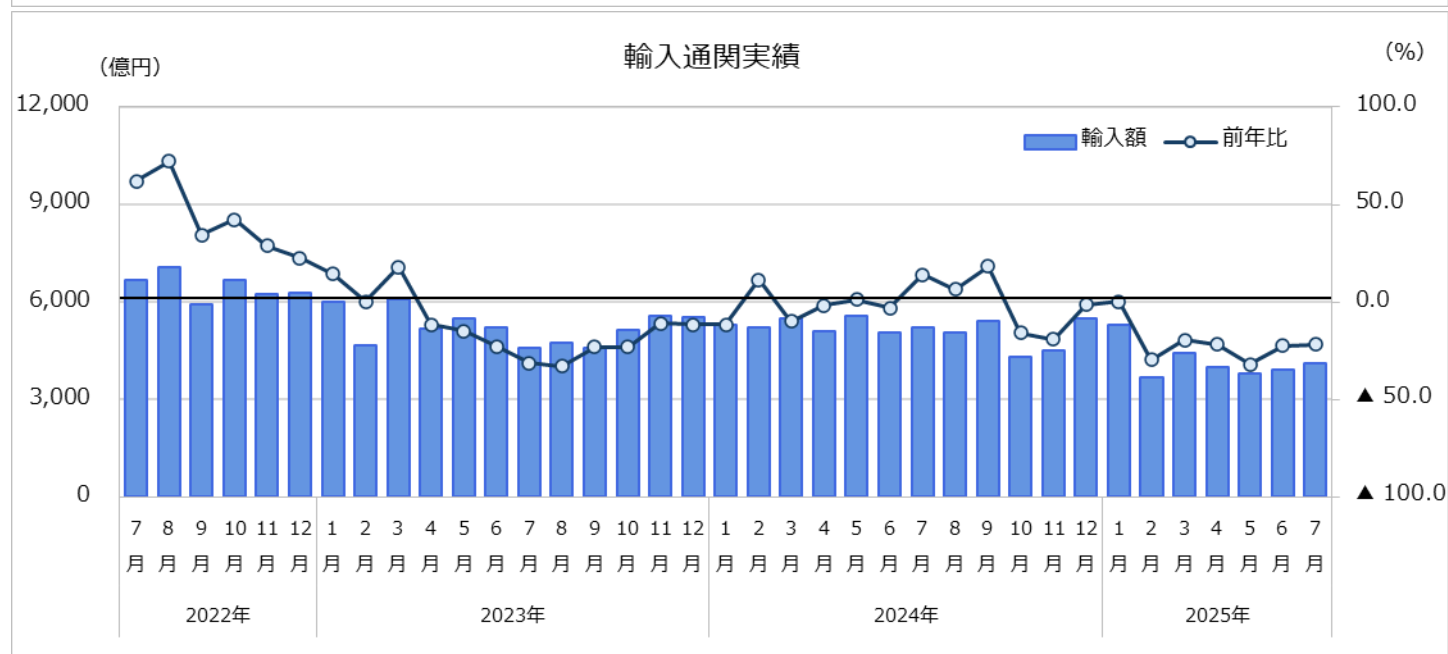
(資料) 「一般職業紹介状況(職業安定業務統計)」(厚生労働省)

5. 貿易 ～輸出、輸入ともに前年同月比で減少～

2025年7月の輸出は、前年同月比▲23.8%と6か月連続で前年を下回った。品目別では、自動車、鉄鋼などが前年を下回った。地域別では、アジア、北米向けなどが前年を下回った。



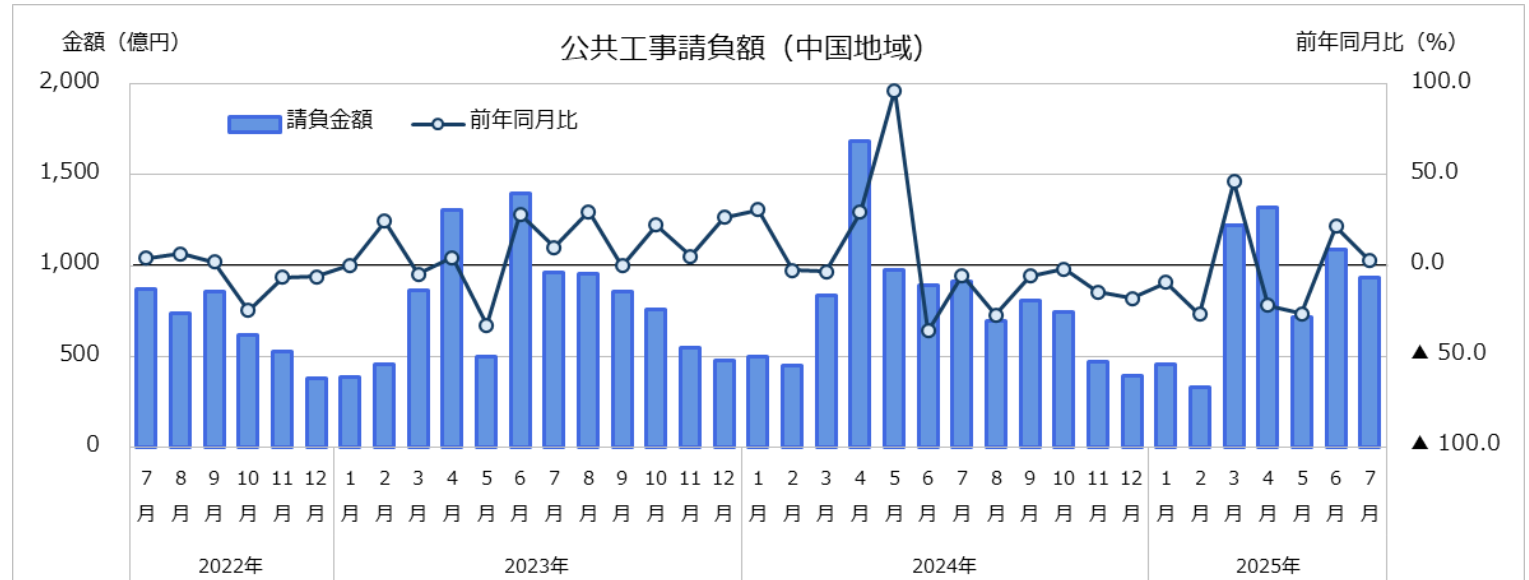
2025年7月の輸入は、前年同月比▲21.7%と6か月連続で前年を下回った。品目別では、金属鉱及びくず、石炭などが前年を下回った。



6. 建設動向 ～公共工事は前年同月比で増加、住宅建設は前年同月比で減少～

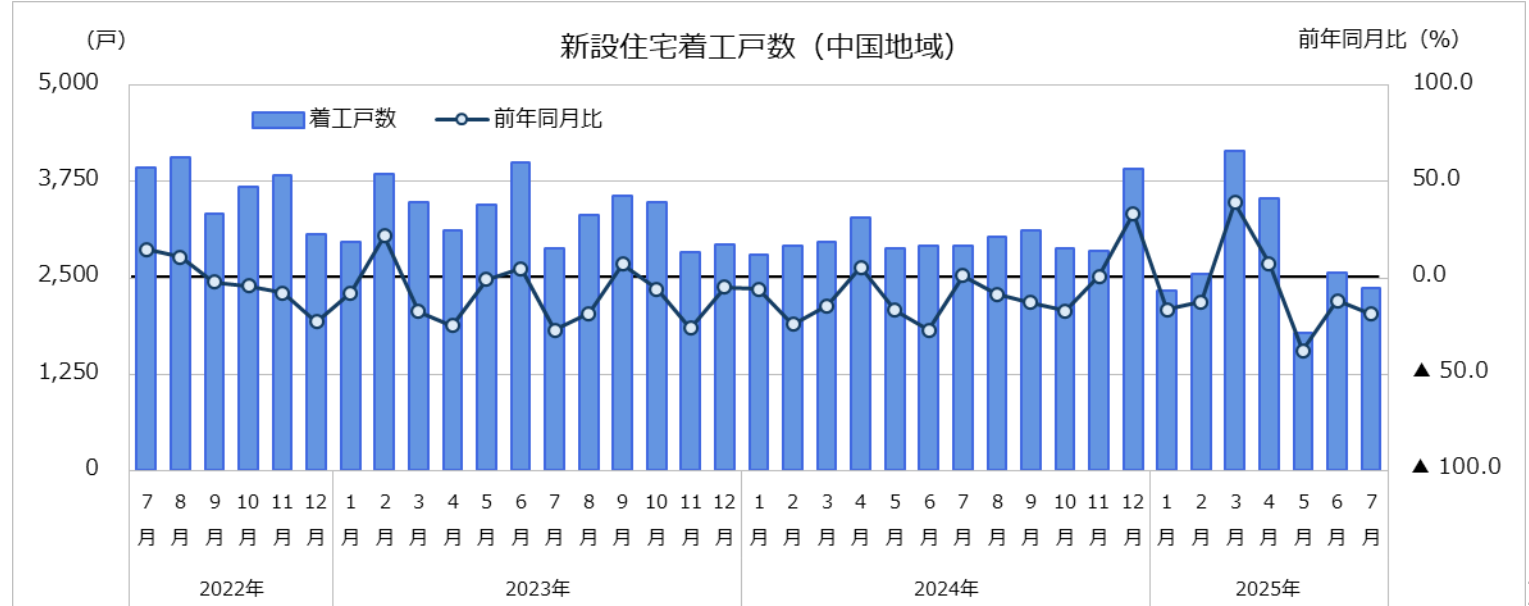
2025年7月の中国地域の公共工事請負金額は、国、独立行政法人等、市町村で前年を下回ったものの、県、その他公共的団体で前年を上回った。合計では前年同月比2.5%と2か月連続で前年を上回った。

(資料) 西日本建設業保証(株)広島支店



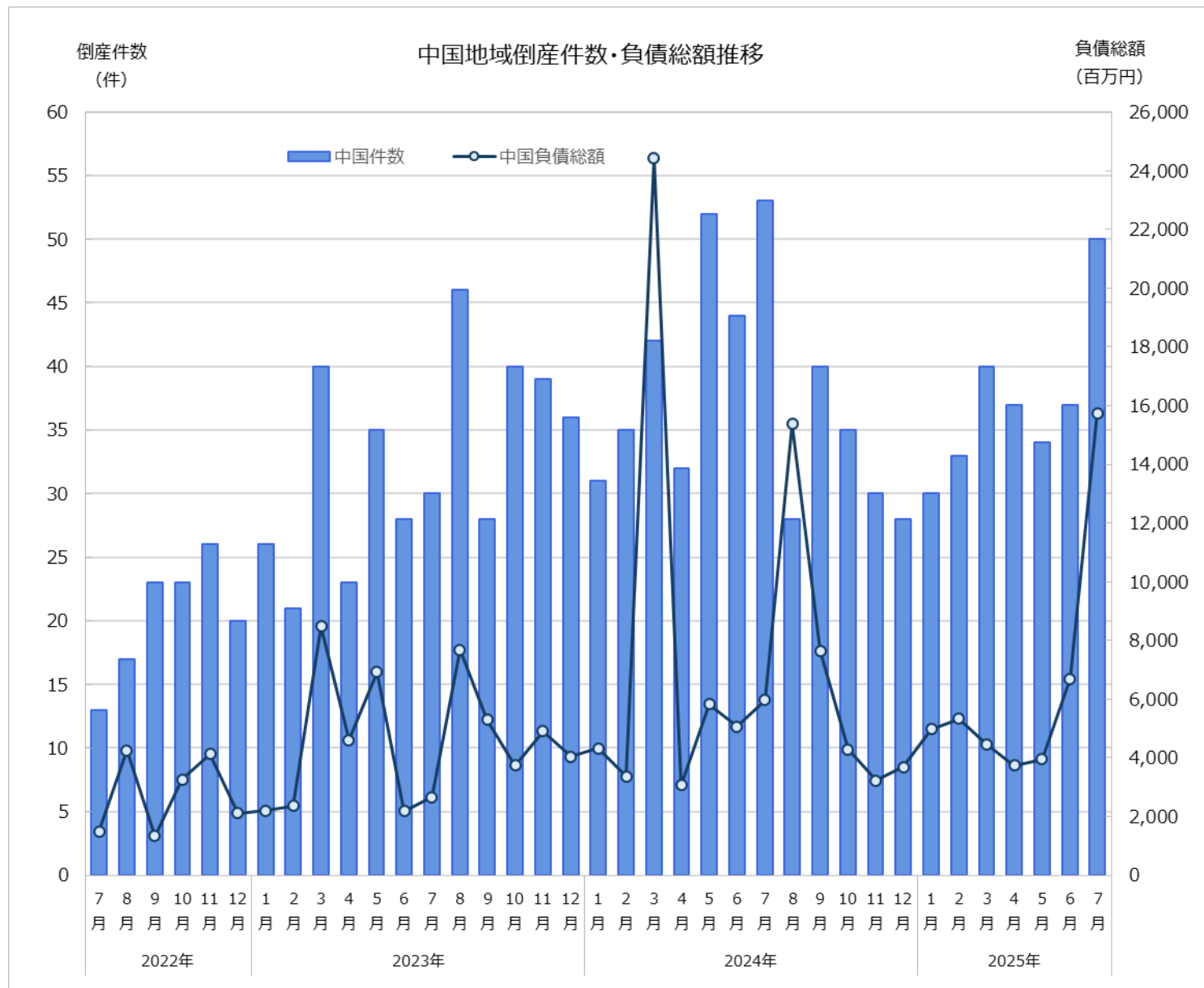
2025年7月の新設住宅着工戸数は、持家、貸家、給与住宅、分譲住宅、すべてで前年を下回った。合計では前年同月比▲18.7%と3か月連続で前年を下回った。

(資料) 「建築着工統計調査」 (国土交通省)



7. 企業倒産 ～件数は前年同月比で減少、負債総額は前年同月比で増加～

2025年7月の企業倒産件数は50件で、前年同月比▲5.66%と3か月連続で前年を下回った。
 また、負債総額は157億4,900万円で、前年同月比163.93%と2か月連続で前年を上回った。
 業種別にみると、建設業が12件、小売業が9件、サービス業他が8件などとなった。
 原因別にみると、販売不振が38件、過小資本及び他社倒産余波が5件、既往のシワ寄せが2件などとなった。



8. 設備投資 ～2025年度計画は前年度を上回る見込み～

日本銀行広島支店の企業短期経済観測調査結果（2025年6月）によると、2025年度の設備投資計画（含む土地投資額）は、製造業が前年度比24.4%、非製造業が同▲7.4%となり、全産業では同7.8%となっている。

（注）横軸に初回調査（3月調査）から実績が確定する翌年6月調査までの6調査回を取り、毎年度の設備投資計画について、調査回毎の前年比の足取り（修正パターン）をグラフで示したもの。

